



「緑生」



地球から生まれた石の美しい色に いつも深い感動を覚えます。 その美しさを生活の中で楽しんでいただきたい。

ジュエリーデザイナー
永井純子さん

デザインで素材を輝かす世界と
コンマ1mmの美を追求する世界

ジュエリーデザイナーの永井純子さんは、20歳の美大生でまだ進路を決めかねていた時、モダンジュエリーの提唱者、故菱田安彦教授*に出会い、雷に打たれたごとき、感銘を受けました。以来、ジュエリーの道一筋にまい進してきました。モダンジュエリーとは、どういうものですか。

「それまではジュエリーの価値は石にあるとされていましたが、菱田先生は、コーラの空き瓶のひとかけらでも、ダイヤモンドに匹敵する美しいジュエリーが創れる、というデザインの重要性を唱えた方です。要するに素材開放ですね。ですから、(社)日本ジュエリーデザイナー協会では「紙からダイヤモンドまで、そこにはアートが宿る」というのがコンセプトなんです。紙でも鉄でも、それを美しい装身具に仕上げるのがジュエリーデザイナーだ、ということなんです。モダンジュエリーに傾倒した永井さんですが、それとは相対する位置にある(株)ミキモトに入

社。ここで8年間デザイナーとしての修行を積みます。

「ここでは石を知り尽くし熟練した技士たちが、コンマ1ミリの美を追求している世界がありました。そのコンマ何ミリかの世界をデザインする、これも私にとつて貴重な体験でした。各工程にはそれぞれ達人がいるのですが、勉強させていただいたその達人たちとは、今でもタッグを組んで仕事をさせていただいています。」

ここで8年間デザイナーとしての修行を積みます。新しいライフスタイルの有り様が芽生え始めています。それは節約ばかりのつらい生活ではなく、あくまでも生きることを楽しむ方向で実現していかなければいけません。そんな中で今回出品した「つながる輪」は、1つのリングから始まり、どんな輪をつなげて、プレスレット、ネックレスと楽しんでいたかのようになっています。みんななでつながつて生きていこうよ、ということを感じてエリーを通して感じていただけたらという思いでデザインしました。カジュアルにもフォーマルにも使えるので、逆に使う方の感性でイメージを広げて使っていただければ嬉しいですね。お陰さまでとても好評で、感動した、と言ってくださる方が多くいらつしやり、受けとめていただけたことを嬉しく思っています。」



◀「つながる輪」/ジュエリーを通して思いを伝えたい。

思いを込めてデザインした
「つながる輪」が伝えたいこと

常に社会へ目を向け、時代の風を感じながらジュエリーを通してその思いを伝えられるようなモノ創りを目指している永井さん。最近発表した作品のテーマは「つながる輪」です。

「未曾有の大震災に見舞われた大きな悲しみの中で、お互いに助け合い、手を携え輪をつな

ジュエリーをつけたとき、
空間全体でのバランスが大切

私たちがジュエリーを身につけるときに、どんな点に注意を払えばいいでしょうか。 「たとえば、天井の高い空間で使うショールの大きさと、個室で使うショールの大きさが違ってくるように、ジュエリーをつけて人がどういう空間の中にいるかがポイントになります。もちろん、ご自分を鏡に映して全体のバランスを見ることは必要なのですが、空間全体でバランスをみるのがより大切です。日本人は小さいからジュエリーも小さくというのではなく、外の空間がインパクトがあれば、それに対抗できる強さがあつていいと思います。たとえば、天井が高くお皿が大きいレストランであれば、その方が体が小さくてもそれなりに華やかなものが似合います。」

日本社会ではとかくへビーになり過ぎない方が無難かもしれません。でも、たくさんつけてもその空間と溶け合つていて、その人の個性が出ていれば素敵に感じられるものです。で

profile ながいじゅんこ

東京都出身。武蔵野美術大学・故菱田安彦教授に師事し、1967年よりモダンジュエリーデザインの創作活動を始める。'73年より(株)ミキモトにシニアデザイナーとして勤務。'81年独立。フリーランスデザイナーとして活動を開始。「天・地・人」をテーマとしたJNコレクションを展開。作家活動と同時に、各企業にジュエリーの企画・デザインの提供、ブランド立ち上げサポート、ジュエリーを取り巻くトータルなプロデュースや監修も手がけるなど、国内外で活躍する。常に「生きる喜び—Joy of Life」を提案する。キーワードは感動。国内外デザインコンテスト受賞、出品、審査多数。(社)日本ジュエリーデザイナー協会副会長 山梨県ジュエリーマスター制度認定委員 ALBADORO(株) ☎03-3405-0256 東京都港区南青山2-27-21-601 <http://albadoro.co.jp/> ★作品展・11/30(水)~12/6(火) 銀座三越新館 M2F サロン・D ジュエリー-Gスペース 「つながる輪」他、多数出品

ジュエリーは
生活の中で楽しんでほしい

「私はジュエリーはあくまでも生活の中で使つて楽しんでほしいと思っています。工夫次第で、使わないときは部屋に置いてインテリアにもなります。持つて楽しんで

すから、固定概念にとらわれずに、時には冒険してみると楽しいですよ。たくさんつけている方は、1つはずしてみたら品が良くなるかもしれないし、控えるめの方は付け足していくと元気な自分に出会えるかもしれない。鏡の前で、ああでもないこうでもないといういろいろ試してみるといいですね。要するに、ジュエリーをつけていることによってその方の持つ個性を引き出し、かつ部屋なり街なりに溶け合つて輝いてほしいのです。」

「地球から生まれてきた石を使ってジュエリーを創っているのだから、地球と対話しているようなもの。なんて美しい色なの、と深い感動を覚えます」とも。自分の感動する心が人をも感動させる力となるという永井さん。これからも私たちが感動させてくれるジュエリーをたくさん創つてくださる。

いま注目されている
日本のジュエリーデザイン

西欧に比べて、日本のジュエリーの歴史はまだ浅いですね。 「西欧では4千年前の指輪が発見されたように、長い歴史がありますが、日本は勾玉以来、千百年くらいの空白があります。きものという別の文化がありましたから。でも、大仏造や彫金などの金属造形文化というのは古くからありました。刀のつばなどに使われた金属を

*菱田安彦/モダンジュエリーを確立し、(社)日本ジュエリーデザイナー協会を設立。